

まらり

酒田市農業委員会報 No.33



「力強く前進する一年を」 ～ 午年 ～

特集

未来へつなぐ食育活動 (2、3面)

県農業委員大会 酒田にて開催 (4面)

農業関係表彰

新技術を学ぶ (5面)

おせっかいおばさんの会イベント報告

新規就農者の紹介 Fresh Farmer はじめの一步 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

農業一筋 短信 (7面)

酒田の“旬”を食す -冬- (8面)

26年新春号

未来へつなげ!!

特集 食育で次世代へ伝える

食べ物は子どもたちから大人まで幸せを与えてくれます。日頃から安全で美味しい食材を口にできるのは生産者の努力があるからです。特に、未来を担う子供たちにとって食事は、食べ物や生産者に感謝する心を育むばかりでなく、生きる事を考える機会にもなります。

農業への見識を深め、実際に触れることで、食事がいっそう楽しくなるはずですよ。

食生活の今と未来

刈屋 小松 賢

「食」は生きる上での基本であって、歴史・文化・教育の基礎となるものです。

食生活は、ライフスタイルの多様化とともに大きく変化し、「食」を

大切にす
る心や優
れた食文
化が失わ
れつつあ
ります。
「食」の
乱れによ



り、様々な問題が生じており、健全な食生活を取り戻していくことが必要です。

そこで「食育」が大切になってきます。二十数年前から地元
の保育園・小学校などに出向いたり、梨園での収穫体験や収穫までの過程を実体験してもらい、「食」の大切さを伝えてきました。

現在市内の保育園・小学校が成長の過程を見学し、毎年梨の花見をし、収穫体験に十校位来園します。その時々、農作物を作る大変さ、楽しさなどエピソードを交えながら話をすると、子供たちは目を輝かせながら質問してきます。

また、十数年前から東京都北区、神奈川県横浜市・横須賀市の小学校にも訪問し、「食育」を兼ねて「出前授業」を行っています。都市部の子供たちは酒田の子供たちと違い、教科書では見ているものの、実際の田園風景など見たこともない子供たちが大多数です。子供たちに実際に体験させたいという思いから、北区と横須賀の小学校二校には、我が家の田んぼの土をトラックに積み、二坪の田んぼを校庭に作ってきました。

素足で水田に入り苗を植え、水管理もやり、収穫したコメを食べるまでを、一年を通して体験します。実際に体験することにより、様々な発見や新しい価値観を生み出し、食べ物に感謝する心、命を大切にす

る心が育まれるのではないのでしょうか。



お米作りは大変だ！
農業って大変なんだ!!

中平田 千葉 明

農業体験を始め

たのは、

十年前、

土里夢の

会からの

要請で、

富士見小

学校五年

生と稲刈

り体験があるから手伝ってほしいと言われ参加したことがきっかけです。先生と話していると、「本当は田植え体験もやらせてあげたい」の一言に、それじゃあ年間を通して農業体験ができないかと考え、次の年に学校側に提案してみたところ、やってみようということになり、富士見小学校に一番近い大田新田の田んぼ三アールを借りて、田植え、肥料散布、稲刈り、脱穀作業まで、一年を通じて農業体験をする運びとなりました。

この体験を通して先生から、



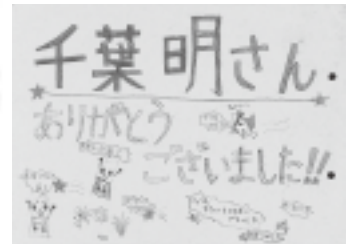
地域全体で

「給食のご飯一粒も残さず食べるようになった」「ご飯をいっぱい食べるようになった」等、嬉しい声を聞くようになりました。また、子ども達からも、「ありがとう」「腰が痛かった、農業って大変なんだ」など、直接話が聞けて励みになっていきます。現在は、こあら町に一四アールの田んぼを借りて、五つの小学校が農業体験を行っています。今年には約二五〇人の子ども達が体験を行いました。収穫したお米は全て学校に差し上げ、使い方は学校にお任せしています。子ども達が日本の主食であるお米作りを体験して、自分たちが作ったお米なんだと実感し

地域で見守る

本楯村 上 淳子

私が農産物を市場に出し始めた頃、思いと手をかけた分が値段に反映されず、もどかしい思いをし、消費者に農業の現場を体験し知ってもらいたいという思いをずっと持っていました。そんな思いを持った仲間と一緒に



年頭のあいさつ

酒田市農業委員会 会長

五十嵐 直太郎



新年明けましてお目出とうございます。
「アベノミクス」の一連の政策の中で、日本農業が大きく変わろうとしています。「農地中間管理機構の設置」・「減反政策の大転換」・「国の根幹に係るTPP参加交渉」・「遊休農地や法人化への対応」等々、生産現場にこれでもかと言わんばかりに、新たな政策が提案され、推し進められようとしています。日本の素晴らしい農地と景観そして文化を次世代に引き継ぐ為にも、関係組織が今まで以上に連携し、諸問題に取り組んでいく必要があります。酒田農業の発展のため、委員・職員一丸となって頑張ってください。本委員会に対して、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

に平成八年から体験活動を展開してきました。

その体験をもとに、私個人でもその時に出来ることから少しずつ保育園の体験活動に参加してきました。ミニトマト、トウモロコシの収穫体験、ジャガイモ植えと収穫。現在はサツマイモ植えと収穫も行っています。散歩の途中で野菜の成長を見たいとのことで、畑の場所も限られています。今年は大根のは種、間引き、収穫と一連の作業を体験してもらい、トマト、トウモロコシの成長も一緒に見て頂きました。食卓に並ぶ野菜には、多くの手がかかることを知り、愛着を持ち、好きになるきっかけになったらと思っています。

始めた頃は、さつま芋が見えても恐る恐る掘っていた子供達が年々積極的にな



り、自分達でつるを引っ張り、競争して掘るようになり、子供の成長を見る事が出来ます。汗を流した後は、その時節に合った簡単な一口おやつを用意し、皆で一緒に畑で食べた事を楽しい思い出に残したいと続けます。

近年になって、子供達から「ムラカミさん」「ジュンコさん」と嬉しそうに呼んでもらえる事は、やっと地域の人と認められた様で、続けて良かったと思ふ事です。



毎月19日は 家族団らんを!

国では、毎月19日を食育の日
(山形県では家族団らんの日)
と定めています。
家族みんなで食事をして
会話を楽しみましょう!!

力強い農業の実現に向けて酒田に集結!



去る十月二十九日に、希望ホールにおいて平成二五年度山形県農業委員大会が開催されました。県内の各市町村から農業委員が集まり、力強い持続可能な農業の実現に向けて決意を強くしました。

大会では、県内四地区から提出された議案が、いずれも満場一致により決議されました。また、事例発表もあり県内の市町村から熱意のある取り組みが紹介され、農業委員会の使命と役割を再認識する有意義な大会となりました。



また、この日酒田市の佐藤六雄農業委員（八幡）が永年勤続功勞により県農業会議会長表彰を受けられました。



祝 酒田市農業賞 受賞

10月2日、平成25年度酒田市顕彰式が開催され、農業委員のお二人が酒田市農業賞を受賞しました。

本農業賞は、農業振興に積極的に取り組み、他の模範となる方が表彰されるものです。

阿部重彰
(本楯)

主な功績

◆複合経営と集落
営農組織の設立・
運営

庄司 隆
(東平田)

主な功績

◆良質米の生産と
庄内柿の産地ブ
ランド化



祝 大高根農場記念山形県農業賞 受賞

11月21日、山形県農業賞表彰式が開催され、土門修司前農業委員会長が表彰を受けました。

土門前会長は、担い手への農地の利用集積を進め、大規模農家の育成など、地域農業の振興発展に貢献されました。



県知事から表彰状が手渡される

新技術で次世代の農業を探る～会報委員 取材～

12月16日、会報委員の研修として、茨城県つくば市にある独立行政法人「農業・食品産業技術総合研究機構」に伺い、最新の技術に触れた。

ロングマット水耕苗システムは、土付苗（箱育苗）と比較すると扱いやすく、きれいな作業が可能とのことであった。育苗期間が短縮される上、30aを苗補給なしで田植えができる効率の良さ、水耕



最先端の研究が展示されている



装置であるため多目的に利用できる等の利点があり、折りたたんで運ぶ等、実用化に向けてさらなる研究が期待されている。また、同研究機構の植物工場では、最新のコンピュータ制御による栽培設備や品種の特性を実際に見る事ができた。



最新設備がそろった植物工場



LEDランプによる苗生産

このほか、管内にはさまざまな研究の紹介があり、中でも耕作放棄地を活用したバイオマス資源作物の持続的安定生産を目指す研究は、次世代の農業の可能性を感じさせるものであった。

（遠田君雄委員）

素敵な出会いで農村地域に元気を

12月8日、農家のおせっかいおばさんの会が主催する婚活イベント『December Love ～12月のときめき～』がベルナル酒田にて開催されました。

酒田市・三川町・遊佐町の女性農業委員6名により構成される「農家のおせっかいおばさんの会」は平成23年に結成され、今回が第2回目のイベント。農村地域の活性化をねらい、男性の募集を1市2町の農村地域在住の方に限定しておりますが、当日は20名の男性が参加。女性には住所要件がなく、庄内広域から16名の参加がありました。

当日はプロの婚活アドバイザーの進行によりイベントが開始されました。初めは会場全体に緊張が感じられましたが、おせっかいおばさんたちが優しくお手伝いすることで会話を弾ませてくれました。



おせっかいおばさんとスタッフ

気がつけばいつの間にか賑やかな会話があちこちで広がり、最後には、めでたく8組ものカップルが誕生し、参加者全員に祝福され閉会となりました。

この出会いを大切にいただき、庄内の農村地域が元気になることを期待します。



Fresh Farmer はじめの一步

～ 新規就農者の紹介 ～

経験



南遊佐
石黒 克知

私は高校を卒業して農業大学校に入り、卒業後すぐに就農し七年目になりました。農業に携わって大学校時代も含めて九年になりましたが、その間様々ことを経験することができました。特に印象的だったのはアメリカにファームステイしたことです。地平線まで広がる広大な畑、農業機械のコンセプトやスケールの違い、農場で働くメキシコ人労働者。そしてその人たちを管理するのがまたメキシコ人。日本にもあるトレーサビリティでは、消費者に表示するのではなく店が把握するものであったり。見るものすべてが新しいものでした。

他にも、産直出荷メインの農家での研修では、多品目栽培の

様子や自分の物を買ってもらうためのパッケージの試行錯誤を経験しました。産直というものがあまり浸透していなかった頃の苦労などを聞けたり、最近では家族経営の大規模な稲作農家に働きに行く機会があり、何十町歩もの作業を省力化しどのように回していくかなど学ぶことができました。

こういった様々な経験があるからこそ、現在同じものになり固まらず失敗しながらですが、新しい作物に挑戦していけるのだと思います。

昨今、異常気象の影響による野菜価格の高騰や暴落、減反の廃止やTPPの加盟による米価の不透明さなど、様々な不安が農業に降りかかってきていますが、それもまた農業を続けていく中での経験であり、これからの糧になっていきます。自分の作った物を一番おいしい時に味わい楽しみながら農業をしていきたいと思っています。

かぜ

～若手農業者リレーエッセー～



私は二十代に会社に勤めた後に就農し、今年で九年目になります。経営

は無人へり、大豆作業受託組織に参加しながら、水稲、野菜を栽培しています。野菜はこれまでミニトマト、ネギ、カブなどを栽培してきましたが、まだまだ失敗しながらの栽培で、これといった柱になる作物を作るころまでは至っておりません。しかし少しずつ前に進んでいると思っています。

我が家は元々水稲のみを栽培する農家で、野菜づくりの知識は全くありませんでした。そのような自分でしたが、就農した年から先の作業受託組織や野菜の部会にも誘ってもらい、現在の経営に至りました。

人との出会い

南遊佐 伊藤 昭

就農当時は野菜については何も知りませんでした。それゆえ分からない事は全て周りの人に聞くということに覚ええました。地域の方々は聞けば親切に教えて下さるので、それが農業を覚える近道になったと思っています。

ところで、私が就農した頃は地域に同世代の農業者はほとんどいませんでした。しかし、近年では同世代はもちろん、二十代の若い世代の人達も就農し、二〇一二年から青年部活動を再開でき、他の地域の若手農業者の方々とも顔を合わせる機会が増えました。その方々から自分の知らない知識・情報を得たり、また一緒に酒を飲んで元気をもらったりと、非常に良い経験となっています。自分がそうした様に、これから地域の若い人達にも、人との出会いの良さを伝えていきたいと思っています。また、自分自身もこれまでの経験を活かして、就農から節目の十年目を良い年にしようと思っています。

農業委員がおじゃましてお聞きしました!

一筋 農業

松山地区・土淵

高橋 繁雄
マキ子 ご夫妻



繁雄さん(七一歳)とマキ子さん(六七歳)は、水稲を中心として、息子さんにもまだまだ負けずに第一線で農業を営んでいます。

繁雄さんは五〇年の農業歴ですが、過去には三〇年近く大工の経験もあり、地元の方々から何かと頼りにされる、親切と評判の方です。

「考えて工夫することが楽しい」とおっしゃっており、水稲以外にも、常に向上心を持ちながら良質の庄内柿やトマトベリーなどを出荷しておられます。昨年、宮中で行われた新嘗祭

には、繁雄さんが栽培した粟が献穀され、改めて農業の大切さと魅力を感じたとのこと。「体が動くうちはなんでも挑戦したい。」と前向きな姿勢も忘れていません。

現在は、庄内地方では珍しいとされるふきのとう「春音」に挑戦中。来年にはさらに拡大したいと意欲も豊富です。

これからは自ら売りこむ営業力が求められると考えており、若い農業者が地域を活性化して農業が盛んになることを期待しておられました。

農業以外では若い頃から海釣りも続けており、体を動かすことで健康にも気をつけているとのこと。これからもお二人で支え合いながら、多くの事にチャレンジし続けてください。

(佐藤修委員)



短 信

農業者年金に加入しよう!

老後の生活がっちりサポートします。農業に従事する方なら広く加入いただけます。

【農業者年金のメリット】

- ①少子・高齢化時代に強い積立方式の年金!
- ②終身年金で八〇歳までの保証付き!
- ③保険料は全額社会保険料控除!
- ④手厚い政策支援! 保険料に国庫補助も!

農業者年金・全国農業新聞のことは、農業委員会までお問い合わせください。

酒田の農業のために! 出前相談報告

12月3日、八幡タウンセンターを会場に、農業委員による出前相談を開催しました。

平成25年は計3回の出前相談を開催し、市内農業者の皆さまからさまざまなお相談をお受けしました。

本年も農地を守り、農業者の皆さんの役に立てるよう、委員会が一丸となって頑張っています。

ご相談の際は、各地区の農業委員にご相談ください。

全国農業新聞

農家の経営とくらしに役立つ
情報をお届けします!!

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1ヶ月 600円

平成二六年度酒田市農作業基準賃金について
平成二六年度酒田市農作業基準賃金は、一月開催の総会で決定予定です。基準賃金の表は、決定後に市ホームページに掲載します。また、五月に発行する「きらり」春季号といっしょに配付いたします。

酒田の“旬”を食す **冬**



「食の都庄内」
親善大使
レストランオアシス
グランシェフ
太田 政宏

ちらほらと雪が舞い、カニ漁が盛んになりました。レストランでお出しするカニ料理といえば、ズワイガニのキッシュやスフレなどいろいろと思ひ浮かべますが、さて家庭で出来るカニ料理。手がこんでいますがクリスマスに向けちょっと贅沢にカニの身をたっぷり使ったクリームコロッケをご紹介します。あつあつをふうふうしながら召し上がってください。



カニの身たっぷりクリームコロッケ

材料（6～8ヶ分）

ズワイガニほぐし身…200 g
玉ねぎ……………1/2 ヶ
エリンギ……………70 g
白ワイン……………50cc
バター……………10 g
塩コショウ
サラダオイル
小麦粉……………適量
溶き卵……………適量
パン粉……………適量

（ホワイトソース）

バター……………80 g
小麦粉……………80 g
牛乳……………500cc
ナツメグ……………適量

（トマトソース）

玉ねぎ……………50 g
人参……………50 g
ベーコン……………1/2 枚
ニンニク……………少々
バター……………5 g
ホールトマト…5 ヶ（缶詰 2 個程度）
小麦粉……………小さじ 1 杯
水……………300cc
バター……………10 g
塩コショウ……………適量
ブイヨンキューブ…1/2 ヶ

作り方

- ① ズワイガニは蒸し器で約 25 分ふかし、冷ましてから身を取り出す。
- ② 鍋にバターを入れ、5mm 角に切った玉ねぎを入れ弱火で炒める。
- ③ ②の鍋に 5mm 角に切ったエリンギを入れて炒める。①を追加して白ワインを入れる。
- ④ ギャルの下にボールを置き、③をあけて水分を切る。残った汁は鍋に入れてよく煮つめ、ギャルの中の具を入れる。
- ⑤（ホワイトソースを作る）鍋にバターを入れ、弱火にしてバターが溶けたら小麦粉を一度に入れて、焦がさないようによくかき回す。牛乳を 250cc 追加してよくかき回す。徐々に固まってくるので、残りの牛乳を 3 回に分けて同様にかけ回す。最後にナツメグを入れかき回す。
- ⑥ ④の中に⑤のホワイトソースを入れて火にかける。塩コショウで味を調べてからパットの中にあけて冷ます。冷めたら形をととのえて、小麦粉、卵、パン粉をつけ、フライパンに油を入れて両面を焼く。
- ⑦（トマトソースを作る）玉ねぎ、人参、ベーコン、ニンニクはみじん切りにしておく。トマトホールは種を取って 5mm 角に切っておく。
- ⑧ 鍋にバターを入れ、ベーコンを入れて弱火にかける。ベーコンの油が出てきたら⑦を追加し、水気がなくなってきたら小麦粉をふり、その後、水を 1/3 量ずつ入れてよくかき回すことをくり返す。3 回全て行ったらブイヨンキューブを入れて約 10 分間コトコト煮る。ギャルで押しながらす。
- ⑨ 鍋に移し替えてバターを入れ塩コショウで味を調える。

編集後記

新年は午年。わたしが子ども頃は馬や牛を使って田を耕し、冬は木材の運搬等も行っていました。動物は同じ屋根の下で暮らす大事な家族です。

さて、TPPの今後を注視していたところに、農業政策の大転換『減反廃止』が決定。数年後の実施ですが、好きだけ米を作ってもいいと言われる、農家の反応もさまざまです。

兼業農家のわたしは、朝夕の草刈りや田んぼの見回りと昼の仕事の続け、中古農機を修理してきましたが、農外収入と両立させた生活で良かったと確信しています。農業には自然の厳しさや優しさがあり、地域の仲間という財産もあります。しかし、離農や耕作放棄地の増加など、深刻な問題もはらんでいます。大規模農家や法人化だけでなく、兼業も共存できる道を模索していきたいと考えています。農業があつてこそ、美しい自然環境が維持されることを政策に含めていただきたいものです。